

八甲田山の火山活動解説資料（平成25年9月）

仙台管区気象台
火山監視・情報センター

「平成23年（2011年）東北地方太平洋沖地震」以降、八甲田山周辺を震源とする地震が増加した状態で経過しています。また、2013年4月下旬以降、大岳山頂直下付近が震源と考えられる火山性地震がやや多い状況で経過しています。

山体周辺の地殻変動観測では、2013年2月頃以降、小さな膨張性の地殻変動がみられています。

噴気活動、高温域に特段の変化は認められませんが、今後の火山活動の推移に注意してください。

平成19年12月1日に噴火予報（平常）を発表しました。その後、予報警報事項に変更はありません。

○ 活動概況

- ・ 噴気など表面現象の状況

噴気等異常に関する通報もなく、噴気活動にこれまでの状況と変化はみられません。

- ・地震や微動の発生状況（図2～4）

「平成 23 年（2011 年）東北地方太平洋沖地震」以降、八甲田山周辺を震源とする地震が増加した状態で経過しています。山頂付近を震源とする火山性地震は 2013 年 4 月以降、やや多い状況で経過していますが、7 月下旬以降は規模のやや大きな地震の占める割合が少なくなっています。

火山性微動は観測されませんでした。

・地殻変動の状況（図6）

国土地理院の広域的な地殻変動観測結果では、八甲田山を囲む一部の基線で、2月頃以降わずかな膨張を示す地殻変動がみられます。

気象庁が南駒込と南荒川山に設置した現地収録型の臨時 GPS 観測装置の連続観測結果では、6 月 15 日から 9 月 26 日の間に特段の変化は認められません。

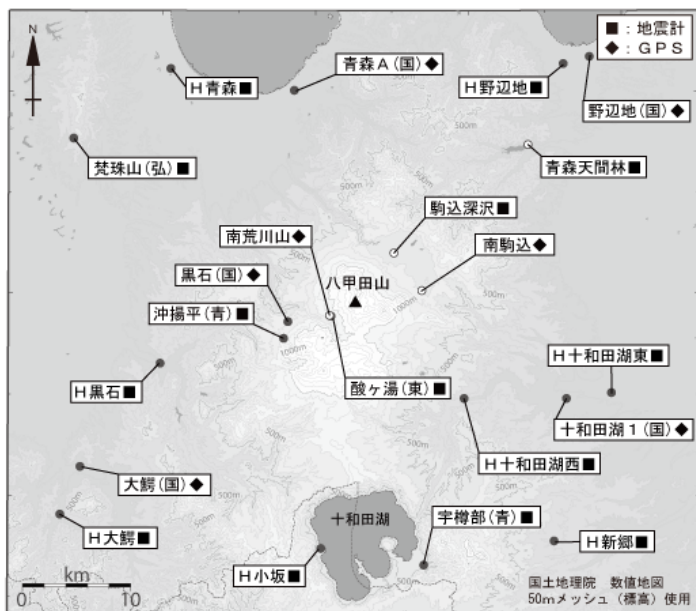


図1 八甲田山 観測点配置図

- ・ 小さな白丸（○）は気象庁、小さな黒丸（●）は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。

(弘)：弘前大学 (東)：東北大学

(国)：国土地理院 (青)：青森県

H: 独立行政法人防災科学技術研究所

この火山活動解説資料は、仙台管区気象台のホームページ (<http://www.jma-net.go.jp/sendai/>) や、気象庁ホームページ (<http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/volcano.html>) でも閲覧することができます。次回の火山活動解説資料（平成25年10月分）は平成25年11月11日に発表する予定です。

この資料は気象庁のほか、弘前大学、東北大学、国土地理院、独立行政法人防災科学技術研究所、青森県のデータ等を利用して作成しています。

本資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の「数値地図 50mメッシュ（標高）」を使用しています（承認番号 平 23 情使、第 467 号）。

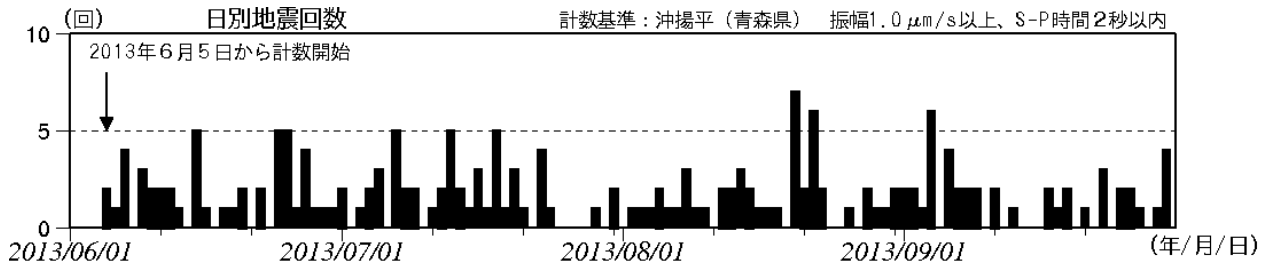


図2 八甲田山 日別地震回数（2013年6月5日～2013年9月30日）

沖揚平（青森県）のデータを元に、2013年6月5日から地震回数の計数を開始しました。

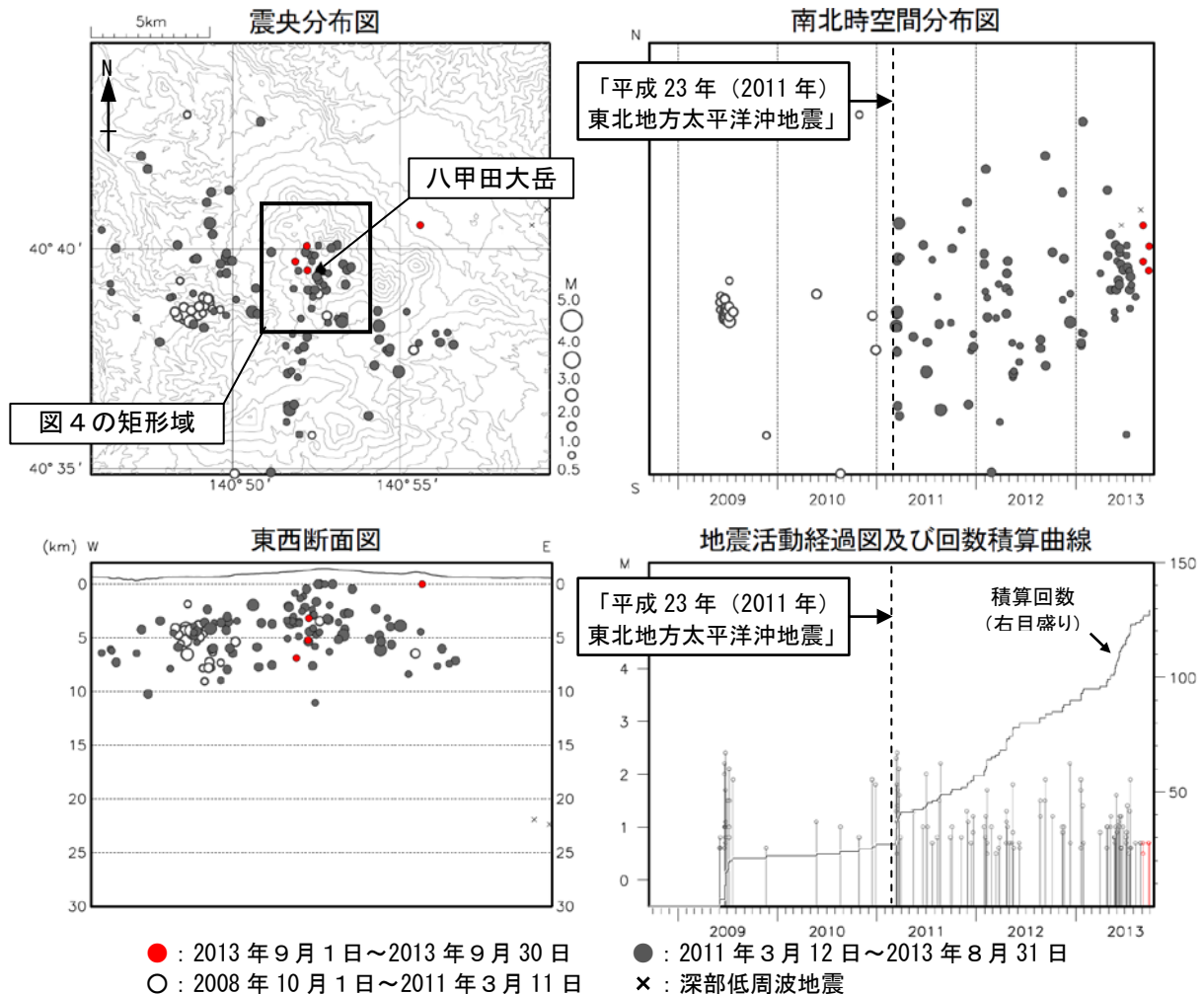


図3 八甲田山 広域地震観測網による八甲田山周辺の地震活動図（2008年10月1日～2013年9月30日）

沖揚平観測点（青森県）が2013年2月14日～5月24日まで障害のため検知能力が低下しています。

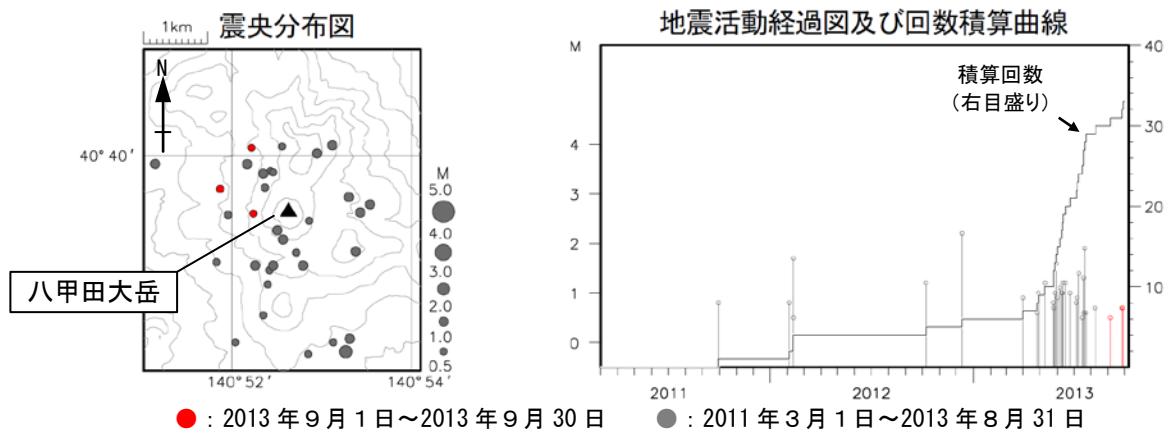


図4 八甲田山 広域地震観測網による八甲田大岳山頂付近の地震活動図（2011年3月1日～2013年9月30日）

図3震央分布図内の小矩形域を拡大しています。

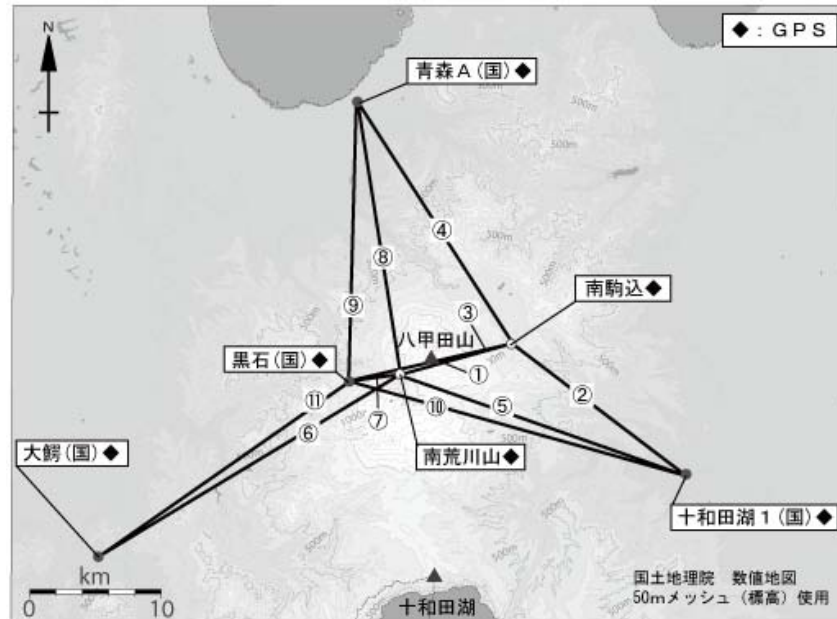


図5 八甲田山 GPS 観測点配置図

・小さな白丸（○）は気象庁、小さな黒丸（●）は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。

（国）：国土地理院

・南駒込と南荒川山は気象庁が設置した現地収録型の臨時観測点です。

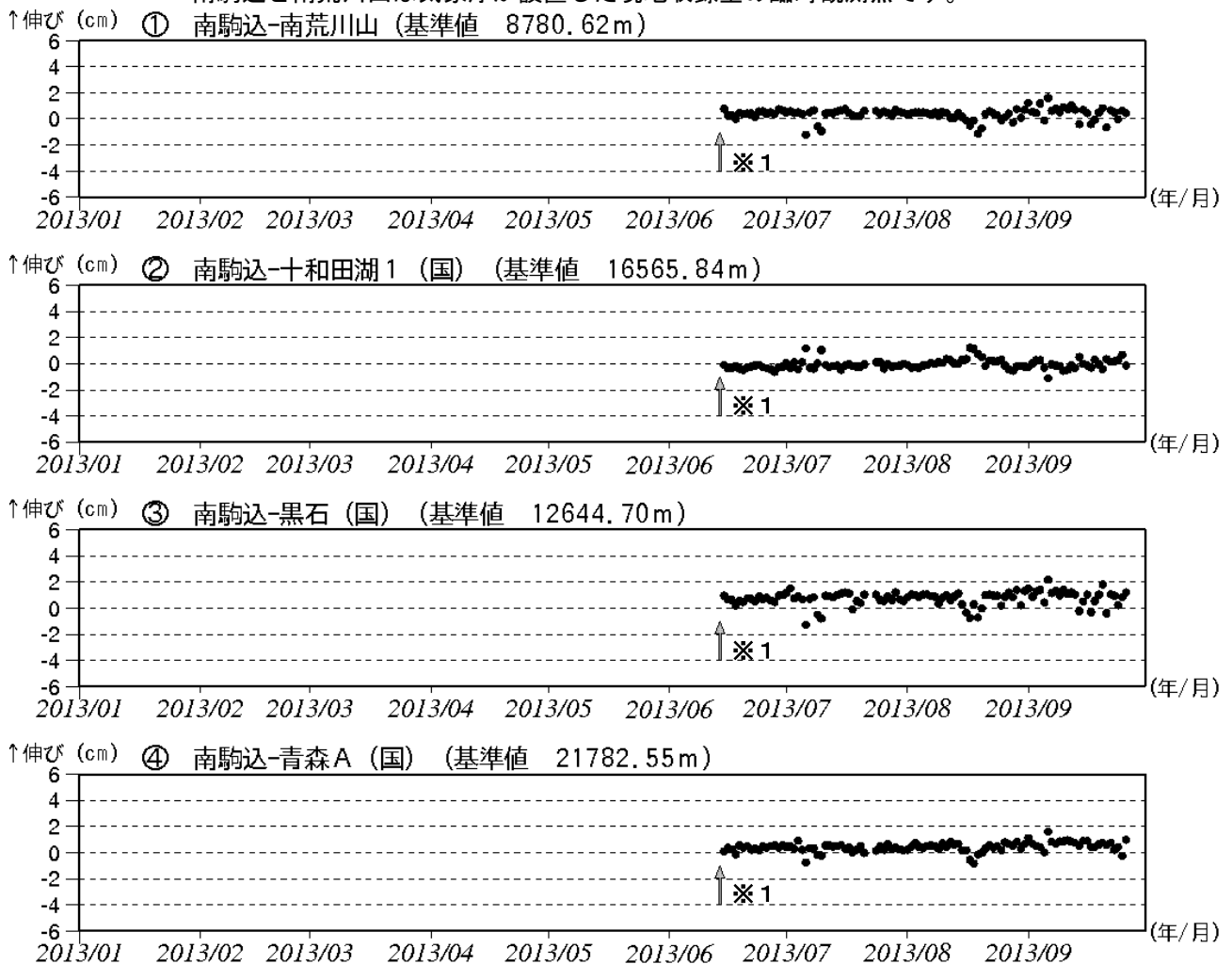


図6-1 八甲田山 GPS 基線長変化図（2013年6月～2013年9月26日）

・①～④は図5のGPS基線①～④に対応しています。

・グラフの空白部分は欠測を表しています。

（国）：国土地理院

※1 2013年6月15日より南駒込と南荒川山の観測を開始しています。

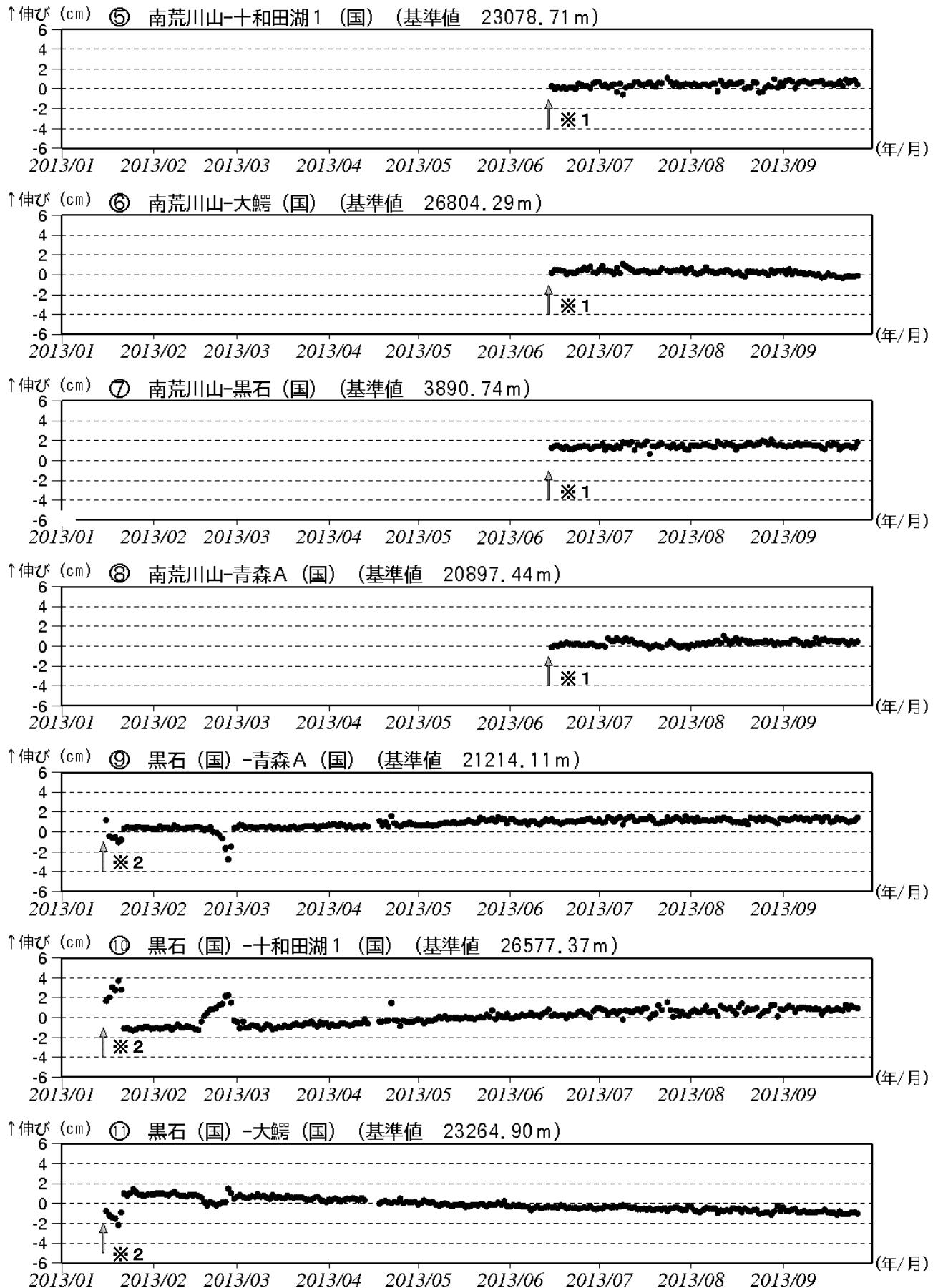


図 6-2 八甲田山 GPS 基線長変化図 (2013 年 1 月～2013 年 9 月 26 日)

- ・⑤～⑪は図 5 の GPS 基線⑤～⑪に対応しています。
- ・グラフの空白部分は欠測を表しています。

(国)：国土地理院

※1 2013 年 6 月 15 日より南荒川山の観測を開始しています。

※2 2013 年 1 月 16 日より解析を開始しています。